

二〇〇九年度 推薦入学試験 (A日程②)

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は23ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認してください。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んでうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(60分 100点) (解答番号

1

44)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

どうしても今日のうちに白状しておかなくてはならないことがあって、母をコーヒーに誘った。

茶の間で喋ると話が辛くさくなる。明るい喫茶店なら、私も事務的に切り出せるし、母も涙をこぼしたり取り乱すことなしに受けとめてくれると思ったからである。

次の日になると、私の初めてのエッセイ集が発売になる。明治生まれのわが父の短気オウ暴を中心に、子供の頃の暮らしのあれこれをまとめたものだが、問題はあとがきであった。

三年前に乳癌を患ったが、母の心臓の具合のよくなかったことと、私自身思うところあって別の病名を言い、ごく内輪の者以外には表沙汰にしなかったこと。あまり長く生きられないような気がして、誰に宛てるともつかぬ呑気な遺言状のつもりで、これを書きました、などと述べているのである。

書いた直後に (5) 白状してしまえばよかったのだが、言おうとすると雨が降ってきたり——運動会ではないのだから雨が降ってもかまわないのだが、こういう話は天気がいい、母の機嫌のいい日に切り出したかった。というのは口実で嫌なことと締切を先にはばすのは、私の一番悪い癖なのである。

手頃な店を見つけ、向かい合って坐った。

七十一歳の母はコーヒー好きで、いつものように山盛り三杯の砂糖を入れ、親戚の噂などを上機嫌で話している。(6) 相鎚を打っているうちに、二人ともコーヒーを飲んでしまった。もう言うしかない。

「三年前のあれね、実は癌だったのよ」

一呼吸置いて、母はいつもの顔といつもの声でこう言った。

「そうだろうと思ってたよ」

また一呼吸置いて、少しいたずらっぽく口調で、お前がいつ言い出すかと思っていた、とつけ加えた。

(7) 私は古いタイヤから空気が洩れるような溜息をついてしまった。

この三年、母とは別に住んでいたこともあり、私は完璧に騙したと思っていた。ことさら元氣そうに振舞ったせい、か、医学雑誌から健康の秘訣を語る座談会に出て欲しいと言われたこともあった。

母は手術直後の弟の声で判ったという。あの子がああいう声を出すからには、(8)、

代わりを頼みながら、私は、思わず声に出してしまった弟の情を嬉しいと思いついて、三年間、ただのひとことも、病気について探りを入れずにいてくれた母を凄々と思った。母の方が役者が上であった。騙したと思っていた私が、実はみごとに騙されていたのである。

本が店頭に並んだ直後から、わが家の電話のベルが頻繁に鳴るようになった。

古い友人達が、本で私の病気を知り、水クサイと腹を立てている。(10) 見ず知らずの同病の方、××エキス、宗教団体からのもあった。これから伺いますというのもあり、私はお礼とお詫びに汗をかいた。(11)

一番多かったのは、「うちの父と同じ」という声であった。

人一倍情が濃い癖に、不器用で家族にやさしい言葉をかけることが出来ず、なにかという怒鳴り手を上げる父親が、かなりの数で世間様にもいたのである。自分には寛大、妻にはきびしい身勝手な夫が、(12) 癖に自分一人では頭ひとつ洗えない夫が、ほかにもおいでになったのである。

見ず知らずの方が、電話の向こうで、一時間にわたって自分の父親を熱っぽく、時にはうるんだ声で語って下さったこともあった。始めの二、三日は私も感動して伺ったのだが、折悪しく本職のテレビ・ドラマの締切とぶつかり、(13) サイ促するプロデュー

サーの声が切迫するようになってからは電話番号を伺い、いずれ、ということでお詫びして切らせて戴いた。同様の手紙も沢山頂戴した。

「自分は三十代の父親だが、娘が将来、私のことをもし活字にした場合、どういう風を書くのかと思うとサク漠たる思いがする。あなたの父上のようにブン殴った方がいいのだろうか」

とたずねられ、返答に窮したこともあった。

お世ジ半分であろうが、他人様にはいい父、いい家族とうつるらしく、父上のご存命中、一緒に酒を飲みたかったと書いて下さった方、母上によりしく、ご弟妹にお目にかかりたいという声も随分と沢山あった。

(17) 、わが家族は、ことのほかご機嫌が悪いのである。

何様でもあるまいし、家の中のみともないことを書かれて、きまりが悪くてかなわないというのである。ここで退いては商売に差し支えるので、尊敬する先輩方のエッセイを例にひいて抗弁したのだが、そういう方のご家族もみなかげでは泣いておられると反撃され、結局二度とこうい真似は致しません、と謝った。とにかく去年の暮れから今年のお正月にかけては謝ってばかりいた。『(21)』という題名が悪かったのかも知れない。

(向田邦子『眠る盃』による)

問1 傍線番号(1)「白状しておかなくてはならないこと」とは、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選んでマークしなさい。 1

- ① 三年前に母に内緒で手術をしていたこと
- ② 三年前の手術が乳癌の手術だったこと
- ③ 三年前の乳癌の手術のとき、母の心臓の具合が悪かったこと
- ④ 三年前の乳癌の手術を、内輪の者以外に表沙汰にしなかったこと
- ⑤ 三年前の乳癌のことを、本に書いたこと

問2 傍線番号(2)・(9)・(11)・(18)・(19)の本文中における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ

ずつ選んでマークしなさい。 2 ～ 6

- ① こじれてしまう
 - ② 難しくなる
 - ③ つまらなくなる
 - ④ めいってしまふ
 - ⑤ つらくなってくる
- (2) 辛気くさくなる 2

(9)

役者が上

3

- ① いつも冷静で、物事に動じないこと
- ② 並の俳優よりも演技力があること
- ③ 理屈ではなく、直感によって感じ取れること
- ④ ごまかすのがうまく、油断できないこと
- ⑤ 人間として一段とすぐれていること

(11)

汗をかいた

4

- ① 汗にまみれてつらい思いをした
- ② 全力で取り組み解決した
- ③ どきどきの連続だった
- ④ 気分が悪くなった
- ⑤ 大変疲れ果てた

(18)

何様でもあるまいし

5

- ① 偉い人であるわけでもないのに
- ② 何といわれようとかまわないが
- ③ どのようなになるわけでもないのに
- ④ どんなに有名になったとしても
- ⑤ どんな様子かわかっているわけでもないのに

(19) 抗弁した

6

- ① 相手の言うことに反論した
- ② 相手の言うことを認めなかった
- ③ 相手の言い分を否定した
- ④ 相手を無視して自分の考えを述べた
- ⑤ 相手を論破した

問3

傍線番号(3)「エッセイ集」は、どういった経緯で書かれたものか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

7

- ① 癌を患い、手術はしたものの、もう長くは生きていられまいと思い、書き残しておきたかった事柄を、読者宛ての遺言状のつもりで書いた
- ② 癌の手術のあと、もしものことがあっても大丈夫なように、家族宛ての遺言状のつもりで、家族の思い出のころなどを書いた
- ③ 癌の手術のあと、もしものことがあつてはいけないので、何か遺言状のようなものを残しておきたいと思い、手術のころや表沙汰にしていなかったことなどを書いた
- ④ 癌の手術のあと、長生きできないとわかり、家族の思い出などをつづった文章をぜひ残しておきたいと思い、遺言状のようにつづりて書いた
- ⑤ 癌の手術のあと、あまり長生きはできないだろうと思い、父のこと、子供の頃のことなどを、誰にということではないが、気楽に遺言状でも書くようにつづりて書いた

問4 傍線番号(4)・(10)・(13)・(14)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

い。 8

12

(4)

オウ暴

8

- ① オウ米文学を専攻する
- ② 自転車がオウ転する
- ③ オウ座決定戦
- ④ 証拠品をオウ収する
- ⑤ 学問の深オウを究める

(10)

水クサイ

9

- ① ひどいシュウ気をはなつ
- ② シュウ目の一致するところ
- ③ 哀シュウが漂う
- ④ シュウ聞が広まる
- ⑤ 家元を世シュウする

(13)

サイ促

10

- ① サイ算がとれない
- ② サイ考の余地はない
- ③ 写真展を主サイする
- ④ 核兵器を搭サイする
- ⑤ チューリップをサイ培する

(14)

サク漠

11

- ① 試行サク誤
- ② 思サクにふける
- ③ 名前をサク除する
- ④ 会社の乗っ取りをサク謀する
- ⑤ 機械でサク乳する

(16)

お世ジ

12

- ① 秩序を維ジする
- ② 情報を開ジする
- ③ ジ道に努力する
- ④ ジ目を集める
- ⑤ 大臣がジ任する

問5 空欄番号

(5) ・ (8) ・ (12) ・ (17) ・ (21)

の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

13
↓
17

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群

17 (21)

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 娘の感謝
④ 家族の機嫌
③ 父の詫び状
② 私の遺言状
① 闘病記

15 (12)

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 不器用な
④ 張り切っている
③ 気が短い
② 威張っている
① いつも不機嫌な

13 (5)

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ やんわりと
④ バッサリと
③ じつくりと
② しつかりと
① サラリと

16 (17)

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ だから
④ ところが
③ さらに
② せいどころか
① つまり

14 (8)

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 何でもなかったのだな
④ もう安心だな
③ 只事ただごとではないな
② あきらめたのだな
① ありえないことだな

問6 傍線番号(6)「うわの空で相鎚を打っている」とあるが、どうして「私」はそのような状態であったのか。その説明として、

最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

18

- ① 癌の治療をしていることを知ったら、母が悲しむと思ったから
- ② 癌の話をしたら母の体に悪いのではないかという心配が大きかったから
- ③ 癌の話を、どのように切り出すかという事で頭がいっぱいだったから
- ④ 癌のことを、白状したほうがいいのかどうか迷っていたから
- ⑤ 癌のことに気をとられて、親戚の話などにはまったく興味がなかったから

問7

傍線番号(7)「私は古いタイヤから空気が洩れるような溜息をついてしまった」とあるが、なぜそのような溜息をついたのか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

19

- ① 癌だろーと思っていたという母の言葉が、予想外で驚くべきものだったので動揺してしまい、後に続く言葉さえ思い浮かばないような状態になってしまったから
- ② 母には癌のことを完璧に隠し切ってきたと思っていたのにそうではなかったことがわかり、今日こそ打ち明ければと思っていた気持ちの張りが急にしぼんでしまったような思いにとらわれたから
- ③ 今日こそ真相を母に伝えようと張り切っていたのに、それが突然裏切られるようなかたちになってしまい、あまりの意外さにただ呆然^{ぼうぜん}として気が抜けてしまったから
- ④ 今日こそ癌のことを話さねばと緊張していた雰囲気^{きふい}が、母の「いつ言い出すかと思っていた」という一言で突然なごやかなもの^{なごやか}に変わり、ほっと一息つくような気分になったから
- ⑤ せっかく母を連れ出して話を切り出したのに、自分の気持ちを十分に伝えることができなかつた^{なかつた}と思い、いつまでもわだかまりが残るような気がしたから

問8 傍線番号(15)「あなたの父上のようにブン殴った方がいいのだろうか」とあるが、どうしてそう思うのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

20

- ① 内実はどうであれ、他人から見ても良い父親であると言われるようになりたいと思うから
- ② 人一倍情は濃いのに、それをうまく表現できない父親の仲間入りはしたくないと思うから
- ③ このままでは、娘にとって、存在感のない父親になってしまうのではないかと思うから
- ④ 自分の家族への思いを娘に伝えるには、ブン殴るようなことも必要なのではないかと思うから
- ⑤ ブン殴ることが、娘に対する唯一の愛情表現だったのだといつかわかってもらえるだろうと思うから

問9 傍線番号(20)「こういう真似」とは、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで

マークしなさい。

21

- ① 家族の、あることないことを文章にし、出版すること
- ② 家族のことを書いた先輩のエッセイをひき合いに出すこと
- ③ 家族の中の一員をモデルにした人物を登場させる本を書くこと
- ④ 家族のことを題材にして本を出すこと
- ⑤ 遺言状のようなものを世間に公表すること

問10

この文章の内容と一致するものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

22

- ① 「私」は、家族の反対もあつて、このエッセイ集を出したことについて強い後悔の念を抱いており、二度とエッセイには手を出すまいと誓った
- ② 「私」は、癌のことを知りながらそぶりにも出さず、母にはずっと黙っていてくれた弟の心遣いとその優しい心情をこの上なく嬉しいものだと感じた
- ③ 「私」は、何かという怒鳴り、手を上げるような父親が、世間には数多くいるのだと知り、安心すると同時に、なんとなくではあるが、憤りのようなものも感じた
- ④ 「私」は、このエッセイ集を出版した直後の読者からの反響の大きさに感動したが、思いもよらぬ内容の電話や手紙もあつてうんざりした気分になった
- ⑤ 「私」は、うまく母を騙したつもりが実は騙されていたのだとわかつて驚いたが、癌のことに感づいていたのにそのことに触れようとしなかった母の心配りに感動した

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

本居宣長は『源氏物語』が勧善懲悪型の小説でないことを力説している。確かにあれは読み方によっては勧善懲悪的、とはいわないまでも「(1)の栄え」とはいえそうな話で、修身の教科書にならないことだけは明らかである。しかし別の意味で『源氏物語』ははなはだ教訓的なので、そのことは他の機会に述べる。ここでまず言いたいのは、勧善懲悪的であろうと修身の教科書風であろうと面白い小説は面白いということであって、芸術とは、とか、近代小説とは、とか余計なことを持ち出さなければ小説の話はこれで終わりになる。つまり『水滸伝』も『南総里見八犬伝』も長過ぎることを除けば文句なしに面白いので、それが高級か低俗かを論じることには意味をなさない。『八犬伝』をありそうにもない話だからといってみても始まらないので、「芸術小説」の方は、ありそうにもない話である点では同じであってしかも文句なしに面白くない。勧善懲悪を排すればすなわち「写実的」になって「近代芸術」の仲間入りができるというのは単純すぎる。⁽³⁾ 勧善懲悪だけがひとり悪評を浴びるいわれはない。

ここでいう善と悪とは正確には正と邪である。昔のギリシア人は善を幸福に、悪を不幸に結びつけて考えていたが、⁽⁴⁾ 勿論⁽⁵⁾ 幸福や不幸はこれを勧めるも懲らしめるもなくて、人生の結果としてただ眺めるしかない。正義と不正もそれぞれ善いことと悪いこととに關係がある。

(4) 正義と不正とが最終的にそれぞれ幸福と不幸とに一致するかと言えばその保証はなくて、『国家』の中でトラシユマコスが言うように正義とは (5) の別名で善とも人間の幸福とも直接の關係はないとする立場もありうる。そこで正義がかならずしも幸福をもたらさず、不正がかならずしも不幸をもたらさないとすれば、功利主義に訴えて正義を勧め不正を排するのは無意味だということになるのだろうか。話は逆のようである。(6)。その仮定にもとづいて勧善懲悪の物語ができあがった時それが人を楽しませるのは、人がその仮定が真であることを願うからである。

その点に関してもひねくれて見せるのが近代人の悪い癖らしい。人間が正義と善(あるいは幸福)との一致を願うものかと疑問を呈してみたところで、逆のことを願うと主張する勇氣は最初から持ち合わせていない以上、この疑問は結局⁽⁷⁾ 疑いという名の優柔不断に転化するしかない。そこで一体正義とは何か、何をもちて正邪を判別するのか、と近代人は⁽⁸⁾ したり顔で言うのである。

る。これは少しばかり知恵のついた子供がよく使う手で、答えにくい質問をして大人が窮するとそれをもって確乎たるものはことごとくクズれ去ったかのように言いたてる。しかし大人から反問してやればよい。お前は善悪正邪の判断もつかないのか。行動にあたってその判断もしないのか。あるいはそもそも責任を生ずるような行動を一切避けて通るのか。それならばこの相手はまさしく幼児である。決断も行動もしない幼児はその目にとりためのない世界の像を映すだけであり、これは認識とも文章を書くこととも無縁のことである。にもかかわらずこの幼児の目に映った世界を文章にしたものが新しい文学の一種として推シヨウされたりするのは不可解と言うほかない。

善悪正邪の別などは本当は簡単なことなので、幼児はともかくとして、大ガイの子供ならそれを知っている。昔話からテレビの子供番組に至るまで、子供が好んで見る世界には善玉と悪玉、味方と敵、正しい行動と不正な行動とが截然と存在しており、子供に決断と行動とを促す。この世界の秩序は単純明快で、その意味は勧善懲悪そのものである。勿論、ここでは正義の味方と想ったのが実は悪党で、といった逆転はいくら起こってもよい。肝心なのは結局のところ誰が善で誰が悪かということがはつきりしていることなのである。

⁽¹³⁾ 子供が遊ぶ世界がそうならば、大人が遊ぶ世界にも同じ型の秩序が求められるのは当然だとは考えられないだろうか。鼯鼠のチームや選手なしに野球ファンであることが不可能なように、鼯鼠の人物や憎むべき人物を決めずに小説を読んだり芝居を見たりすることはありえないと言ってよい。普通、読者はまず主人公を鼯鼠にすることに決める。それ故主人公は読者にとって英雄である。善や正義はこの英雄の一身に代表されているにちがいないと読者はひとまず仮定する。仮にこの主人公が大悪党であったことがわかったとしても、読者は依然として主人公を応援する。勿論これは主人公が悪党なら悪党で英雄にふさわしい限りにおいてである。

悪党でも善人でもないただの (14) 人物しか出てこない小説は読者を裏切る。メロドラマでも悪玉は必要不可欠であり、例えば女主人公をいじめて泣かす姑のように読者に憎まれるための人物は是非とも出てこなければならぬ。このお膳立てを低俗と嗤うのは当たらない。メロドラマや『八犬伝』型勧善懲悪物語を嗤う人間が、「体制」とか (16) 「とかは悪で、こ

れに楯突くのが正義だという、これまた単純素朴な図式を平気で援用しているのはよくある話である。

しかし

(18)

これは遊びの世界の約束事であって、大人の現実の世界をこれで手軽に律することはできない。その時に混

乱の余り、正も邪も善も悪もないとって決断も行動も放き⁽²⁰⁾する人間は子供にとどまるしかない。確かに、大人の行動の世界には単純な勧善懲悪の話はない。正義か不正かに分類できる行動というよりも、適切か不適切か、賢明か愚劣かに分類すべき行動が大人の世界を構成している。それを描けば大人にも読める小説ができあがることになる。そのような小説が単純な勧善懲悪の型にははまらないとしても、それは善悪正邪の問題を切り捨てるといふ重大な、かつ誤った選択をした結果ではないことだけは言っておかなければならない。人間は善悪正邪とも行動とも無関係な「意識の流れ」などではないのである。

(倉橋由美子『あたりまえのこと』による)

〔注〕『国家』——古代ギリシアの哲学者プラトンの著作。

問1 空欄番号

(1)

(4)

(5)

(14)

(16)

(18)

に入る語句として、最も適切なもの

を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

23

28

26 (14)

⑤ ④ ③ ② ①

非凡な 卑小な 尊大な 反社会的な 英雄的な

23 (1)

⑤ ④ ③ ② ①

独善 偽善 偽造 悪徳 悪人

27 (16)

⑤ ④ ③ ② ①

民衆 宗教 権力 金銭 改革

24 (4)

⑤ ④ ③ ② ①

しかし そして また すなわち だから

28 (18)

⑤ ④ ③ ② ①

もしかすると なにがなんでも もともとは そればかりか いずれにしても

25 (5)

⑤ ④ ③ ② ①

自然の秩序 中立の立場 強者の利益 善行 悪行

問2 傍線番号(2) 『南総里見八犬伝』の作者を、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

29

- ① 上田秋成 ② 滝沢(曲亭)馬琴 ③ 十返舎一九 ④ 近松門左衛門 ⑤ 鶴屋南北

問3 傍線番号(3) 「勧善懲悪だけがひとり悪評を浴びるいわれはない」とは、どういう意味か。その説明として、最も適切なもの

のを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

30

- ① 多くの小説の中で、勧善懲悪型の小説だけが、小説的でないとは非難されるのはおかしいのではないか
② いろいろな小説の中で、勧善懲悪だけが教訓的であると非難されるのはおかしいのではないか
③ 勧善懲悪が人を楽しませるといことは、非難されるべき問題ではないのか
④ 『源氏物語』のような小説のみがよい小説とされ、『八犬伝』が非難されるのはおかしいのではないか
⑤ 小説は面白いことが何よりで、勧善懲悪型の小説だけが非難されるのはおかしいのではないか

問4 空欄番号

(6)

に入る文として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

31

- ① 正義がかならずしも幸福をもたらさないことが明らかであるからこそ不正はかならず幸福をもたらすと仮定することに意味がある
- ② 正義がかならずしも不幸をもたらさないことが明らかであるからこそ正義はかならず不幸をもたらすと仮定することに意味がある
- ③ 不正がかならずしも不幸をもたらさないことが明らかであるからこそ不正はかならず幸福をもたらすと仮定することに意味がある
- ④ 正義がかならずしも幸福をもたらさないことが明らかであるからこそ正義はかならず幸福をもたらすと仮定することに意味がある
- ⑤ 不正がかならずしも幸福をもたらさないことが明らかであるからこそ正義はかならず幸福をもたらすと仮定することに意味がある

問5 傍線番号(7)・(9)・(11)・(12)・(17)・(20)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

32

37

(7)

カイ疑

32

- ① 幼い頃に|見た風景を|カイ古する
- ② 病人を|カイ抱する
- ③ 勝つ|見込みは|カイ無だ
- ④ 地震を|警カイする
- ⑤ |カイ力の|持ち主

(11)

推シヨウ

34

- ① 損害を|補シヨウする
- ② 動かぬ|シヨウ|扱を集める
- ③ 節約を|シヨウ|励する
- ④ 原文と|対シヨウ|ウする
- ⑤ オリンピッ|クの|シヨウ|致運動

(17)

素ボク

36

- ① 国民の公|ボクとして|働く
- ② |ボク|汁を買う
- ③ 牛を|ボク|場に|放つ
- ④ |ボク|刀を|振り|回す
- ⑤ 質|ボク|な性格

(9)

クズれ

33

- ① 意見を|ホウ|括する
- ② |デザ|インを|模|ホウ|する
- ③ |ホウ|食の|時代
- ④ |仲間|から|ホウ|逐される
- ⑤ |ホウ|落事故が|おきる

(12)

大ガイ

35

- ① 天|ガイ|孤独の|身の上
- ② |迫|ガイ|を受ける
- ③ 現|政|権を|弾|ガイ|する
- ④ 気|ガイ|のある|人物
- ⑤ 感|ガイ|に|ふける

(20)

放キ

37

- ① 人生の|キ|路に|立つ
- ② 自|暴|自|キ|になる
- ③ |ベン|ジンは|キ|発油である
- ④ |キ|気|迫る|演技
- ⑤ |キ|異な|目で|見られる

問6 傍線番号(8)・(15)の本文中における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選んで

マークしなさい。

38

39

(8)

したり顔で

38

- ① うそがばれないよう、すっかり落ち着いたさまで
- ② うまくやったといわんばかりの得意そうな顔つきで
- ③ 自分は何でも知っているのだというような表情で
- ④ 何事もなかったように、平然としたさまで
- ⑤ わかってもいないことを、あたかも理解できているという表情で

(15)

お膳立て

39

- ① 基本をしつかりおさえること
- ② 伝統を守ること
- ③ 味つけをすること
- ④ 準備をすること
- ⑤ 世話を焼くこと

問7 傍線番号(10)「この幼児の目に映った世界を文章にしたもの」とは、どういうものか。その説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

40

- ① 善悪の判断もつかない幼児が書いたような文章で、まったく不可解な事柄を無責任な態度で書いた文章
- ② 善悪の判断もつかない幼児の目に映ったものを、そのまま書いたかのような大人の文章
- ③ 物事の善悪や社会的責任をまったく理解できない、幼児のようなふりをした大人が書いた文章
- ④ 物事の善悪の判断や責任を回避するために、幼児の目を装って書いた文章
- ⑤ 善悪の判断や社会に対する責任などと、まったく関係ないことを、幼児の目を意識した大人が書いた文章

問8 傍線番号(13)「子供が遊ぶ世界」とは、どういうものか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選

んでマークしなさい。

41

- ① すばやい決断と行動が、善である世界
- ② 正義の味方がいつも現れている世界
- ③ 誰が善で誰が悪か、明らかに区別された世界
- ④ 悪党が実は正義の味方である世界
- ⑤ 敵と味方がくるくる入れ替わる世界

問9 傍線番号(19)「大人の現実の世界をこれで手軽に律することはできない」とは、どういう意味か。その説明として、最も適

切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

42

- ① 現実の大人の世界には、すべての行動を説明できる明快な法則は存在しない
- ② 現実の大人の世界は、正義とか不正とかにはまったく関係のない別の世界である
- ③ 現実の大人の世界は、単純に善か悪かで分類できるようなものではない
- ④ 現実の大人の世界は、単純明快なものでなく、いつも混乱を生じさせるものである
- ⑤ 現実の大人の世界は、鼻唄とか英雄とかということとはかけ離れた世界である

問10 この文章の内容と一致するものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

43

- ① 近代小説は、善悪正邪の問題に正面から取り組むことで発展してきた
- ② 小説の主人公は、善や正義を体現することによって、読者にとって英雄となる
- ③ 子供の世界でも、善悪正邪の問題は、きわめて真剣に取り扱わなくてはいけない問題である
- ④ 正義とは、一見、人間の幸福とは無関係のものに見えるが、突きつめていくと、正義が幸福を生むことになる
- ⑤ 人間は、正義と善、不正と悪が一致して欲しいと願っている

問11 この文章に題名をつけるとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

44

- ① 「勸善懲悪のすすめ」
- ② 「芸術小説とはなにか」
- ③ 「小説の読み方」
- ④ 「子供の見る世界」
- ⑤ 「善悪正邪の世界観」